

私大一般入試組、半数割る

今春、私立大に入学した学生のうち、一般入試で入学した人の割合が初めて半数を割り込んだことが25日、文部科学省のまとめでわかった。

今春 推薦・AO増加

「大学全入時代」の到来を控え、書類審査や面接などで評価する「AO（アドミッション・オフィス）入試」や推薦入試で受験生を確保する私立大が急増していることが背景にある。同省は「入試の多様化で、今後も一般入試の割合は減る可能性がある」と指摘している。

文科省が国公私立の全717大学を対象に行った調査によると、今春の入学者総数は、昨春より約1万800人多い約60万4700人。私立大の入学者は約47万6800人で、このうち、一般入試で入学した人は49・6%にあたる約23万6600人、推薦入試は約19万8100人（41・6%）、AO入試は約3万9200人（8・2%）だった。

推薦入試やAO入試を実施する私立大は年々増加し、今春、AO入試を実施した私立大は約72%、推薦入試は約99%に上った。これに伴い、私立大の一般入試の入学者の割合は、1996年度の67・4%をピークに減り続けている。

一方、国立大に一般入試で入学した人は約85%、公立大では約76%だった。

(2007年9月26日 読売新聞)

中華民国政府
駐日代表
陳水扁
夫人
周美青